公益社団法人 宮崎県柔道整復会 第42回 宮崎学会

学術部長　相馬　崇宏

　令和5年5月27日(土)13時50分から、宮日会館11階 宮日ホールで開催された。

令和2年1月15日に東京で初めて新型コロナ感染症が確認され、イベントがことごとく中止となった。宮崎学会もその一つで、第40回は一年延期でwebのみの開催で行われた。翌年の第41回はハイブリッド配信での開催となり、今年は、ようやく新型コロナ感染症が5類に分類されたことにより、ハイブリッドで学会を開催することが出来、77名の先生方が参加されました。

会員発表として、都城支部 小堀俊陽会員「ＥＭＳを使用した握力と肩主要筋との関係性」、宮崎支部 玉置真士会員「独自の評価を用いた外反母趾の経過」、小林支部 増田輝会員「コロナ感染した認知症の母を隔離期間中に介助した際の対処方法」の発表をされた。

その後、論文発表者表彰、生涯学習表彰、ボランティア表彰がありました。

会員講演として、宮崎支部 落合弘志会員「災害時の本部運営について(JIMTEF災害医療研修会より)」として、講演され、南海トラフ大地震に対して、宮崎県としてどうしたらよいのか今後の課題が見えてきた。

続いて、延岡支部 奈須崇倫会員、宮崎支部 中村拓未会員「臨床・スポーツ現場における超音波画像観察装置の活用」の二人による講演が行われた。日整も超音波画像観察装置(略：エコー)を勧めており、骨折・脱臼全体の0.4％しか現状関わっておらず、10年後には20％まで柔整師が関わっている状況をめざしている。作っていくためのツールとして考えられており、

外傷を見る柔整師の育成として、エコーは必要なツールとして考えられており、柔整師の養成課程にすでにエコーが入っている。そのため今回、エコーを使った業務をどのようにしているのかを二人の会員に講演してもらった。

医師会講演として、神宮川畑整形外科・内科クリニックの医院長の川畑武彦医師による、「昨今の整形外科治療のトレンド －手術療法以外で－」の講演をされた。

　最近では、侵襲度の低い治療法が進んでおり、内視鏡手術もしかり、PRP(多血小板血漿)、生理食塩水による筋膜リリース、ESWT(体外衝撃波治療)といったトレンドが今注目を集めている。

　柔道整復師の世界でも、超音波画像観測装置が普及することで、昔のような急性期の患者の信頼を得て施術出来る体制を整えておく必要があると思われる。

今回、論文発表、会員発表された会員の皆様、本当にお忙しい中資料作成をしていただきありがとうございました。今後とも、技術向上のため先生方の技術披露の場として、学術発表をしていただきたいと思います。









